

小値賀町地域ぐるみの見守り活動(長崎県小値賀町)

(構成：地域住民(民生委員・老人クラブ・各地区自治会・社会福祉協議会)

《活動主体の概要》(平成28年2月1日現在)

総人口： 2,661人

高齢者数： 1,200人

世帯数： 1,293世帯

産業構造：

平成22年度国勢調査での、小値賀町の産業について、最も従事者が多いのは農業、次いで漁業となっています。

以前は漁業者の方が多かったのですが、後継者不足、魚価の低迷、燃油の高騰、磯焼け問題等が影響し、年々減少傾向にあります。後継者育成制度や全国に先駆けて漁船の燃油補助等の振興策を実施していますが、長く厳しい状況が続いています。農業は、一般財団法人「小値賀町担い手公社」での後継者育成事業などの効果が表れ、従事者人口の減はあるものの、小値賀町の基幹産業として振興されています。

また、アイランドツーリズム事業の展開で観光客数は年々に伸びを見せており、観光業は、町の新たな産業として注目されつつあります。

地理的構造：

長崎県五島列島の北端部に位置する外海離島で、小値賀本島を中心に大小17の島で構成される火山活動によって生じた珍しい群島です。総面積は25.46km²で、島嶼部でありながら地形は平坦であり、複雑な海岸線が織りなす美しい自然環境に恵まれ、島のほとんどが西海国立公園に指定されています。

アクセス：

小値賀本島へのアクセスは、現在、定期便は船便のみであり、交通の起点となっている佐世保市までは航路距離70kmの位置にあり、フェリーと高速船がそれぞれ1日2往復運航し、所要時間はフェリーが2時間30分～3時間30分で、高速船は1時間25分～2時間です。また、福岡からもフェリーが1日1往復運航しており、所要時間は5時間20分です。

活動のきっかけ

小値賀町においては、離島という特性もあり、島全体の住民同士での結び付きも比較的強い地域であると思われます。特に、町内の各地区自治会における老人クラブや婦人会などの団体についても、地区内の住民のほとんどが加入しており、町の行事の際の手伝いや各団体での活動についても、活発に行われております。

また、小値賀では道を歩くと「おはよう」、「こんにちは」などの挨拶や会釈を行う習

慣があり、島は住民みんなが、一つのコミュニティとして、このように笑顔で交わり合っているという印象を受けます。

このように、昔から現在に至るまで、小値賀町では地域ぐるみでの声掛けや見守りが必然的に行われており、改めて「きっかけ」となるものは無いと考えられます。

活動方法

現在、小値賀町においては、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らすことがで

きる環境づくりを目指して、老人クラブや各地区自治会において、一人暮らしの高齢者や、高齢者のみの世帯だけでなく、高齢者全体に対しての遠目の見守りや声掛けを行っています。また、民生委員児童委員における個別訪問により、島の高齢者を見守る活動を展開してきました。

工夫点

民生委員児童委員や地域の人からの連絡があった際、地域包括支援センターの職員がなるべく早く訪問し、現状の確認を行うようにしている。また、1度の訪問での解決が困難な場合が多いため、定期的の訪問を行い、支援につなげています。小値賀町において、島内の移動はどんなに遠くても車で15～20分程度でいける距離であるため、至急の対応が可能。

また、民生委員児童委員や老人クラブ等の定例会等へも出席し、連絡への協力の依頼やいろんな制度の周知なども行っています。

成果

民生委員や地域住民からの情報提供により、支援につながって行くケースが例年増えてきています。

課題

現在小値賀町では、高齢化率が45%を越えており、約1,300世帯中、高齢者のみ(老老介護、高齢者夫婦等)の世帯が約200世帯、独居高齢者のみの世帯が約350世帯と、全世帯の中で高齢者のみの世帯が約45%を占めている現状であります。



社会福祉協議会が実施している、配食サービスの配達ボランティアによる手渡し安否確認状況。



配食サービス車は、狭い島の道でも広範囲を短時間で多くの利用者に配達可能な専用車であり安否確認に大いに役立っている。